Vol.59　令和３年６月18日（金）

検索　金目川　http://www.kaname-net.org

編　集・発　行

金目川水系流域ネットワーク

世話人会

せせらぎ通信

金目川で星を眺める

今年も七夕の時期になりました。平塚市では毎年、七夕祭りが盛大に開催されていましたが、コロナ禍により、昨年は中止、今年も開催規模縮小という残念なことになっています。

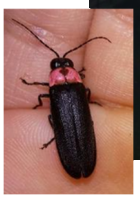
そんな地上の騒ぎには関係なく、天空の星々は巡っていき、夏になると天の川が夜空の中央を流れ、その両岸には七夕伝説の織姫（こと座の一等星ベガ）と牽牛（わし座の一等星アルタイル）が明るく光ります。

市街地では光害（天文マニアが命名した「公害」の一種）のために、天の川どころか星もうっすらとしか見えません。でも、私たちの金目川沿いには光害の影響が少ない場所もありますので、そんな場所を探してみてはいかがでしょうか。

七夕の日（７月７日）は梅雨時なので星が見えないことが多いのですが、もし好天に恵まれたなら、今年はちょうど月明かりが無い頃なので、市街地を離れた場所に行けば、ベガとアルタイルの間を流れる天の川（銀河）を見ることが出来るかもしれません。

一方、地上で星のように光るのは蛍ですが、金目川沿いには、蛍がよく見える場所がいくつかあります。先日、私たち「かなめネット」の仲間がそんな場所のひとつに案内してくれました。暗くなると、いくつもの蛍がゆったりと飛び回り、高く舞い上がった蛍を見上げると、ちょうど月と星も一緒に見えました。なんとも美しい光景で、幸せな気持ちになりました。

金目川にかかる月

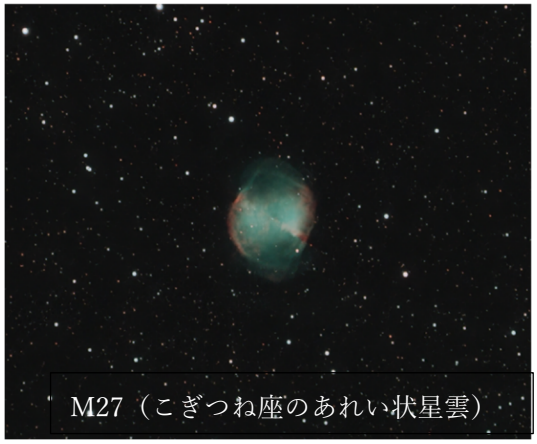


←蛍

さて、平塚市に住む私は、かなめネットの会員であるとともに天文マニアでもあります。住まいは金目川の西側で中心市街地から離れているので、自宅からでも星はそこそこ見えます。自宅のベランダから撮った夏の天体をご覧ください。七夕の星の近くにある星雲です。

いつか、金目川河畔で、星を見る集いができれば、と思っています。

（関戸　恵介）



M27（こぎつね座のあれい状星雲）

お知らせ

金目川水系流域ネットワーク（かなめネット）はホームページを公開しています。

紙面上部のURLを入力するか、QRコードをスマホのカメラで読み込んでください。

金目川の下流・花水川の現状は…

ー花水川は、どうなって行くのだろう

府川　清

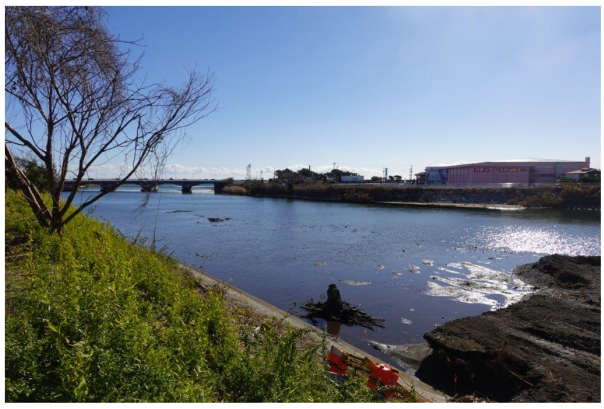
私は年金生活に入った二〇年ほど前から我が家の近く、花水川土手周辺のゴミ拾いを始めました。その数年後、**金目川水系流域ネットワーク**を知り、仲間になりました。ここ二年はコロナ禍で中止していますが、一二年前から数十名のボランティアの協力を得て、桜の咲く前に、花水橋周辺（高麗大橋からＪＲ鉄橋まで両岸、河川敷）のゴミ拾いの取り組みもしています。バード・ウォッチングのグループも見かけます。散歩、ウォーキングの人達も増えています。

最近の花水川は、子どもの頃とだいぶ変わってきました。**二〇年ほど前、川幅が三〇㍍ほど広がり、川が大きくなり、高麗大橋も開通しました。**七年前には台風十八号の大雨は、土手まであと一㍍で濁流が溢れそうになりました。これ以上の長く雨が降ったら、もし満潮だったら、溢水・洪水が現実に起こることを知りました。**川底の浚渫、川幅拡張、土手の補強、遊水地の確保など流域治水が、洪水対策に差し迫っていることも理解しました。**同時に、大雨で濁流が土手から溢れても、被害を最小限に食い止めることが大切です。

今年、上平塚の平塚大橋下流の左岸の川幅拡張工事が終了しました。数年前、平塚大橋の上流の玉川橋、東雲橋の拡張・新設工事も行われました。三年前一三四号線の花水川橋も四車線になりました。**洪水対策、交通対策が進んで住民は喜んでいます。**

現在は、高麗大橋近くの我が家の付近は、洪水対策で土手や河川敷に繁茂した雑木の除去、川底の土砂の除去作業や、下花水橋（通称・木橋）周辺の右岸の川幅拡幅事業が進められています。我が家の近くは、川の流れが変り、新たな中洲ができたりしています。土手も伐採された株が二年目になってヒコバエが育っています。国道一号線の花水橋近くに川幅拡張時に市民の要望で造られた「柳の小島」が、昨年、撤去されてしまったのは、残念です。

土手、河川敷に繁茂した樹木が伐採・除去されましたが、増水時の土手の保全に役立っていたのではないのか。相模湾が貧養化して魚が減っているという。流域に繁茂する樹木は、プランクトンの養分を海へ送り出す役目もある。土手から川の中が見えないくらい木が茂っているのも問題だが・・・。二、三年前に聞いたアオバズクやホトトギスの鳴き声も昨年からしなくなり、野鳥やセミも減ってしまった。これらをどう考えたら良いものか、悩みます。



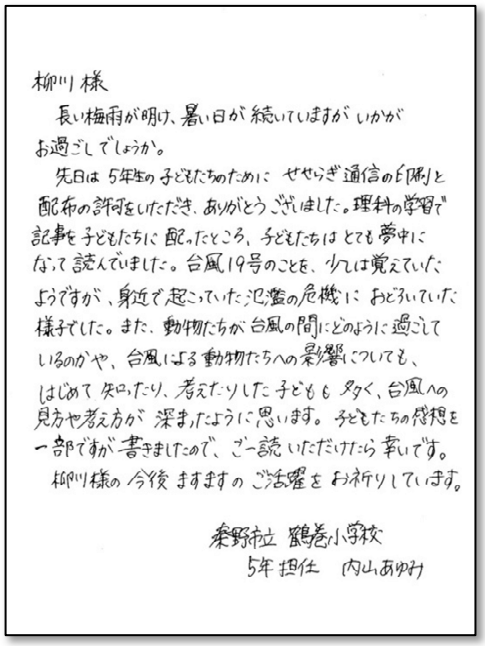
現在、金目川の十四所で、川底に大量に溜まった土砂の除去作業など、いつになく広範囲で大規模な工事が進められてい

ます。国土強靭化計画で予算が付いたから実施していると聞いています。川は周辺に暮らす住民にとって、大切なものです。行政には、環境や治水に配慮した健全な川づくりが求められています。その川が、将来どうなっていくのか住民は関心を持っています。金目川・花水川の工事が少しずつ長年進められていますが、**どういう川をめざしているのか、その内容やいつ頃どういう工事が進められるのか、さっぱり計画が判りません。**知りたい情報が知らされていない現状に多くの方が不満を抱いています。

最近、身近なところでも洪水の危険を感じたり、川の景観、環境問題に関心が増え、昔のように川で遊びたい要求も強くなっています。花水川はどうなっていくのだろうか。こういう川にしてほしい、という住民の要望も日増しに強くなっています。

川の工事計画は、ずっと以前に情報公開されているそうですが、私たちにとっては知る手段がありません。**今回の大規模な工事の機会に、住民に説明会を開き、知りたいことや要望を組み上げていただければうれしいです。その事により住民の川への関心も高まります。**川の環境、洪水対策などその大切さへの理解にもいい方向に向かうと思います。川を管理している行政にもプラスになります。そういう機会をぜひ作って頂きたいものです。

戦後に、少年少女期を送った私達の世代は、よく花水川で遊び、自然に親しんで成長してきました。今はできませんが、泳いだり、魚取りや釣りをしたり、シジミを採って味噌汁で食べたりしました。ウナギやナマズも川エビも食べました。冬になると子ども数人で土手の芝焼きを勝手に楽しみました。これも土手に大木が生えなかった一因でしょうか。土手で子どもだけの仲間内のマラソン大会もやりました。**そういうことが出来る花水川にしたいものです。大雨の時、海へ大量に早く濁流を流すためだけの川にして欲しくありません。**住民の暮らしとともに、川は毎日流れています。自然豊かな花水川にしたいものです。



柳川様

長い梅雨が明け、暑い日が続いていますがいかがお過ごしでしょうか。

先日は5年生の子どもたちのために せせらぎ通信の印刷と配布の許可をいただき、ありがとうございました。理科の学習で記事を子どもたちに配ったところ、子どもたちはとても夢中になって読んでいました。台風19号のことを、少しは覚えていたようですが、身近で起こっていた氾濫の危機におどろいていた様子でした。また、動物たちが台風の間にどのように過ごしているのかや、台風による動物たちへの影響についても、はじめて知ったり、考えたりした子どもも多く、台風への見方や考え方が深まったように思います。子どもたちの感想を一部ですが書きましたので、ご一読いただけたら幸いです。

柳川様の今後ますますのご活躍をお祈りしています。

秦野市立 鶴巻小学校
5年担任 内山あゆみ

小学校の理科の学習で せせらぎ通信が活用されました

柳川 三郎

令和２年７月に、秦野市立鶴巻小学校で、当会の**せせらぎ通信 No. 56** が教材として使用され、2019 年に全国に被害をもたらした**台風 19 号**によって金目川が氾濫寸前となった状況などが説明されたそうです。

鶴巻小学校から、この授業についての感想がお手紙で届きましたので、紹介させていただきます。

※ せせらぎ通信 No. 56 は当会のホームページで閲覧できます。

子どもたちの感想

○ やっぱり台風はこわいと、命にかかわるものなんだなと思いました。

○ 19号がどれだけ強かったか覚えていないけど、これを見てすごい強かったということがわかった。

○ 金目川が氾濫の危険水域になってしまったことは知らなかった。カルガモ、ワ羽、ゴイサギがいたが、魚を見たらアユがいなくなってしまったので台風のときに流されてしまったのかなとかなしくなりました。人間以外の生き物たちは、台風のニュースを知らないから、台風が来たことを自分たちで気づかないといけないから、ニュースを見ている人間でも被害にまきこまれることがあるのだから、命を守るのは大変だなと思いました。

○ 金目川のことだけでも近くでこんなことがあったんだなと思いました。川は氾濫しかけていたことがわかりました。他にも、カモやカニたちから私も勇気をうけました。

○ 台風で、川にも被害があったけど、大きなモクズガニが金目川の上流には3匹いるとわかって モクズガニはすごいと思いました。きっと台風でなくなってしまった動物もたくさんいる中で、カワセミやカルガモなど たくましいと思った。

○ 金目川は、台風19号のときに氾濫しそうになっていたのを知っておどろきました。そして、氾濫しなくてよかったと思いました。台風後の翌日の10時の金目川だと生いしげっていた夏草は、あとかたもなくなってしまったことがとてもおそろしかった。けども、4日後にワ羽のカルガモがもどってきたので少し安心した。

「湘南里川づくりみんなの会」の取り組みのご紹介

「湘南里川づくり」取り組みのご紹介

丹沢大山を源流に湘南地域を流れ、相模湾に注ぐ金目川（かなめがわ）水系。

“湘南里川（さとかわ）づくり”とは、湘南地域のふるさとの川である金目川水系の河川等を地域の貴重な財産として次世代を担う子どもたちに引き継いでいくため、市民（湘南里川見守り隊）と行政の協働により清掃、草刈、植栽、生き物観察会など河川等の保全・活用に取り組む活動のことです。

この「湘南里川づくり」を流域全体に広げていくため、市民と行政とが連携し、設立された「湘南里川づくりみんなの会」。

「湘南里川づくりみんなの会」では、「湘南里川見守り隊」の会員を募集中です。

みんなで、活動情報を交換したり、金目川水系の理想像について語り合いませんか？

ぜひ、ご参加ください！。

【「湘南里川づくりみんなの会」事務局】

写真は２０１９年度の「ひらつか環境フェア」に出展し、会の活動をPRしたときの写真です。

湘南里川づくりに一緒に取り組む「湘南里川見守り隊」を募集しています。詳細は、ホームページで！

里川づくり　検索

お問い合わせ先

湘南里川づくりみんなの会事務局

神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整課

電話　（0463）22-2711（内線 2111～3）